



ぶどうのささやき

創刊号

2008年
5月15日発行

地域経済の活性化を目指し、社会貢献をしています。

発刊のご挨拶

産業クラスター研究会では、今まで会の運営報告を始め、活動状況などをホームページに掲載・報告して参りましたが、この度会報誌を発行することに致しました。



内閣府では、昨年 NPO 法の改訂検討の中間報告を発表しました。その中で次のような提言を行っています。『NPO 法人には管理運営能力の向上』『積極的な情報公開の促進』『人材や資金等の活動資源のための社会とのつながり強化といった課題がある他、一部に営利目的と見られる活動や詐欺などの違法行為を行う法人が見られるなど、当該制度自体の信頼を損ねるおそれのある事例も現れている』との問題提起と共に『情報公開制度に基づき、広く市民が監視できるようにするため、

市民への情報公開の在り方を明確にする必要がある』と改訂の方向が示されています。

こうした背景に加えて、当会への理解を深めていただくために、新たな情報チャンネルとして、『ぶどうのささやき』を発刊することにした次第です。

当研究会の専門分野及び公式的な情報は、従来通りホームページをご覧くださいこととして、「ぶどうのささやき」では、活動の裏話や担当者の想いなどの紹介を交え、親しみやすい文字通りささやき合いの広場にふさわしい情報チャンネルに行きたいと思っています。

いま大手企業の景況感では、株安、ドル安、資源高などの影響から悪化の傾向を示しています。このような状況の今こそ、地域経済の活性化へ向けて少しでもお手伝いができますよう、会員一同努めてまいり所存です。この紙面を通して、一人でも多くの方々に当研究会の活動をご理解頂ければと願っています。

理事長 古川 弘康

クラスタとは、ぶどうの房や羊の群れを意味します。米国の経済学者マイケル・ポーター氏が著書『経済戦略』の中で異業種間のネットワークを構成している状況を意味するものとして『産業クラスタ』という言葉を使っています。私たちは地域経済活性化への貢献を目指して、2003年8月に産業クラスタ研究会を設立しました。

【歳時記】 静岡の知人から掘りたてのタケノコが届いた。早速ヌカと鷹の爪を入れて茹でると、部屋中に何とも言えない豊潤な香りが漂う。掘りたての筍はあれこれ手をかけずにいただくのが一番である。茹でたての絹皮を刺身と若竹汁にして食卓へ。部屋中に漂う香りと共にいただく。まぎれもなくふる里の土の香り、忘れられない味である。

スーパーでは中国産の筍が一年中売られている。いや筍に限ったことではない。今や家庭の台所は外国産に席卷されているのが現実である。

昨年から今年にかけて食の周辺は、偽装・改ざん、挙げ句には毒入り餃子まで出回って騒然とした。こうなると単純に「責任はどこ？」と言ってははいられまい。戦後、主要農産物や海産物の輸入から始まって、今

では大根やネギまでが外国頼みとは知ってはいたが、まさか調理済みの食品までとは、恥ずかしながら筆者はまったく無知だった。ここまで追いつめたのは、安くて便利、美味しそうに調理された外食産業に己の舌を預けてきた消費者の責任は大きいと言えまいか。

外食産業が悪い、冷凍食品が怪しからんといっているのではない。欧米型の効率や利便性中心の生活スタイルもいい。だが、日本には次世代に伝えたい風土が育んだ食文化が生きていることを忘れて欲しくない。昔から「兵糧攻め」ということがあるように、食料は最も有効な「戦略物資」でもある。食料自給率 39%の現実はいっしょに受け止めたい。

五月五日は子どもの日。親から子へ、子から孫へと「味三代」、お袋の味を伝える日というのはいかが。(卯)

部会活動紹介

企業支援事業部会では

企業支援事業部会は、法人企業を中心の経営及び技術支援を行っています。

主な活動内容は、中小企業への経営相談、協力会社の紹介、特許出願手続きのお手伝い、ISO認証取得及びそれに関連する生産・品質改善の支援、社員教育など多岐に亘っております。

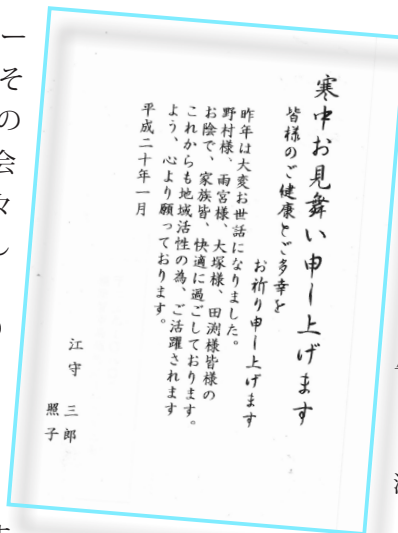
経験豊かな個人会員が、会員企業のご要望に応える体制で運営しております。

住宅リフォーム事業部会より

「高齢者を悪質なリフォーム業者から守る」これこそ高齢化に向かう地域社会の不安解消、即ち、地域社会への貢献の一つという我々の理念に添うものと確信しています。

そのためにも、依頼者の信頼をまず確保し、安心してリフォームの支援をさせて頂くことです。横須賀市の後援を得たことも、その考えに添うものです。

その結果として、依頼者から感謝のお言葉を頂くこと



海外関連事業部会から

海外関連事業部会では、産業クラスター研究会設立後まもなく活動を始め、地元中小企業の米軍入札支援、技術文書翻訳、輸出入業務・海外進出のコンサルティング等により、会員企業の海外関連事業の活性化のお手伝いをしています。

翻訳業務に最近新たに追加したのは、英文のCAD図面への直接入力で、これはCAD図面をDXFファイルに変換して行う方法です。既に法人会員の数社にこの方法で納品しました。今のところは、法人会員を中心に対応しております。ご活用下さい。

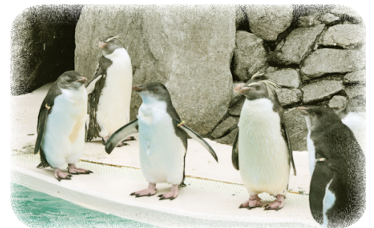
こそ、奉仕の活動にこの上もないやり甲斐を感じる時です。

ご紹介するのは、昨年暮れ、馬堀でリフォームされた施主のお客様から届いたお便りです。

この他にも、田浦のお客様でしたが、わざわざ事務所まで足をお運びいただき、ご両親が病院に入院された時、早くリフォームした部屋に帰りたいた言われたほど住み心地が良くなったとのご報告を受けました。

支援活動の成果を喜び合った次第です。

油壺のマリンパーク
ペンギンのあどけない表情に思わずシャッターを……



◆◆◆ 個人会員の募集 ◆◆◆

研究会は、行政や産業界で活躍したシニアと中小企業経営者の有志によって、「地域経済の活性化への貢献」を目的に2003年8月に設立、翌04年1月4日内閣府の認証を取得して、わが国最初の経済関係NPOとして発足しました。

会員は、中小企業経営者（法人会員）、行政や産業界で活躍したOB・OG（個人会員）で構成されているので、中小企業が直面する問題をいち早く把握することができ、その対策の検討と検討結果の実現に向けて活動しています。

しかし、活動のほとんどは個人会員が担わなければならないことに加え、課題が多いため、ただ今個人会員の募集を行っています。

募集については、専門分野及び資格の有無は問いません。必要なのは社会貢献の「志」です。

詳細は当会のホームページをご覧になるか、電話でお問い合わせ下さい。ご応募をお待ちしています。

横浜事業部会

横浜事業部会は、「横浜市経済の新たな担い手創生事業」として、当研究会が提案し、認定された「横浜市内と地方の中小製造業の補完関係構築」を担当するタスクフォースのプロジェクトチームです。

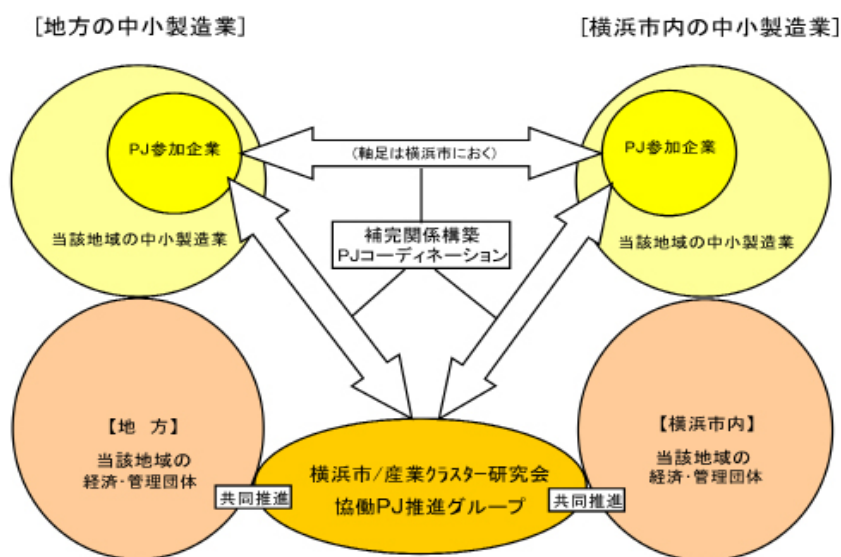
今までも中小製造業を対象とした支援事業は各所で行われてきましたが、業種業態が多様で、且つ数も多いため成否はその意義を理解し、汗をかいて走り回る役割を担う者の有無によると思われる。

幸い当事業部会には、その役割を担うに相応しい人数のスタッフがいることに併せ、横浜市の担当部署や市工連（横浜市工業会連合会）の関係者が、協働事業

として全面的にご協力下さっていますので、必ずやよい結果が導けるものと確信しています。

具体的には、競争力向上を願う横浜市内の個別の中小製造業からの依頼に応じて固有の問題を見出し、問題解決の方策検討とその実現に努めることとなりますが、この方策には難しさを伴う地方の中小製造業との補完関係構築を含め、地域格差の解消にも役立ちたいと願っています。

この事業は緒についたばかりなので、できるだけ多くの中小製造業の方の依頼をお待ちしています。



「横浜市内と地方の中小製造業の補完関係構築」の事業コンセプト

横浜市内中小製造業の内、本プロジェクトに参加した企業の課題解決のため、地方の中小製造業との補完関係構築を目指す。

推進形態は、関係の行政機関・経済団体とのコラボレーションによる。

横浜新事務所の開設

産業クラスター研究会の横浜新事務所を本年4月1日より横浜市中区尾上町の中小企業センタービル内に開設致しました。

今までは、ある企業のご厚意で金沢工業団地の工場の一隅をお借りしていましたが、この度ようやく念願が叶って下記に開設することが出来ました。

場所は JR 関内駅北口から桜木町方向に歩いて5分の「神奈川中小企業センタービル」の7階、インキュベーションルーム12号室です。市営地下鉄関内駅だと7番出口より歩いて3分の至近距離です。

これを機に横浜在住のサラリーマンOBの入会を募っておりますので、興味のある方はメールか電話でお問い合わせください。

なお、YRP 事務所（横須賀）は従来通りで変更ありませんが、当研究会としては二つの事務所の有機的な運営を図り相乗効果が生み出せるようにしたいと思っています。

*住所 〒231-0015

横浜市中区尾上町5丁目80番地

神奈川中小企業センタービル7階12号室

*NPO 法人 産業クラスター研究会横浜事務所

*電話 (045) 633-6488

*FAX (045) 633-5183

*電子メール cluster88yokohama@ybb.ne.jp

*ホームページ <http://www.cluster.jp/>

人々人々人

理事長 古川 弘康

タバコを愛する蒸気機関車

わが研究会の大黒柱。会の立ち上げ準備期間も含めると5年間余り、朝な夕なに寝食も忘れて動き回り、年齢を感じさせない実にエネルギッシュな方です。会の活動では理事長として、いつもメンバーを引っ張る機関車役を続けてこられました。

1956年（株）日揮に入社。オートメーション・エンジニアとして、プラント建設で活躍された後、プロジェクト部長やFA（ファクトリー・オートメーション）事業部長として、新規分野の発展に努めてこられました。退職後は「趣味にしか生甲斐を見出せないような生活は性に合わない。少しでも社会に役立つようなことがしたい」とおっしゃる、「生涯現役」を地でいくお方。

当研究会の当面の課題は、経済環境の変化と共にこの研究会が担わなければならない活動項目が、増えてきているにも拘わらず、会員数の不足から対応できていないことです。会員募集や他のNPOとの提携に注力されていますが、状況は厳しく悩みはしばらく続きそうです。これって！日本のNPOが抱える共通課題のようですね。言イ出シッペの宿命でしょうか。もう暫く悩んでもらいましょう。

趣味は歴史と山登り。日本史はもちろん世界史の古代から現代、さらには科学・技術史といった分野にまで及び、会の運営に大いに役立っています。また、その昔はアルピニストとして日本山岳会員でもあった由。さすがにこちらは生涯現役とはいかないようですが、体力維持はお忘れなく。

古川流「知と技の還元」を期待します。

法人会員紹介

SSG 湘南安全硝子

1970年代は、わが国のモータリゼーションが急速に進展した時代でしたが、道路事情の悪さもあってガラスの傷・劣化修理はユーザーの頭痛の種でした。

この状況に対応して、当社は1972年に東京湾に面した横須賀市大津という好立地に設立すると同時にトヨタ、日産等主要メーカーのガラス修理指定店となっており、今日に至っております。

また、1976年には横須賀では初めてのラジエター修理・販売を開始した他、プレジャーボート分野にも進出し、1977年からは造船部門を設置して、沖縄を皮切りにサイパンで観光船の建造を始めました。

これらの船舶は、現在もサイパン、グアムで多くの観光客の旅の思い出作りに一役かっております。

また、この進出を契機に現地での観光事業開発にも、積極的に参加したことから1999年には、浜田社長が北マリアナ政府の親善大使に任命されました。

1980年代から時の要請は「造る」から「造ったものはリサイクルする」時代へと移り、当社では、その要請に応じて廃棄ガラスを粉砕して、再利用するためのガラス粉砕装置をいち早く開発・市販し、この面で

も貢献しております。

今では道路もほとんど舗装され、また、自動車ガラスも強化されて寿命も延び、ユーザーニーズは従来のガラス修理から、

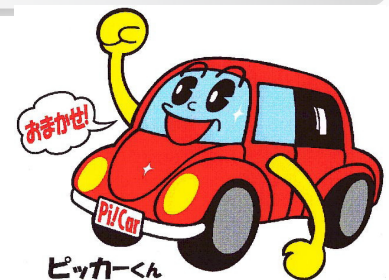
自分好みの色合い、好みのフィルム貼付、撥水性の向上などに多様化しております。これらの新たな技術も取り入れて、地域のカーユーザーの皆様に貢献しているのが当社の今の姿です。

また自動車ガラス安全作業のための国際活動にも協力しており、2007年には、業界組合で作成した安全作業マニュアルを国際規格とすべく、交流を進めている米国等主要国に提案のため英訳を担当しました。

事業所は横須賀市内16号線を南下し大津交差点を右折したところ。皆様是非お立ち寄り下さい。

なお、浜田社長には、産業クラスター研究会の副理事長に就任して頂いており、ご多忙な中ご尽力を願っております。

(URL [http:// www.shonansg.com](http://www.shonansg.com))



イキヌキ イキガイ

副理事長 野村 徹

「絵画」・・・

退職後の私の人生の楽しみは、趣味として絵を描く時間的余裕を持つことでした。さらに、絵を描くことが、他の活動と併せて、ささやかでも地域社会に貢献出来れば、新しくスタートした生活の質をよりキャッチアップ出来ると考えています。

趣味として取り組んだ絵は水彩画です。水を触媒にしていますので、水の特性を生かせるのが魅力です。それは限りなく透明感を持ち、流動性を利用して叙情性を醸し出してくれます。

具体的には、画面を湿らせて、にじみやぼかしを多用していくのですが、結果として得られる優しさの表現は、茫洋としておぼろげな世界へ導いてくれます。

この現象は、古来から日本人の好む感性と言っても過言ではないでしょう。その証拠に、伝統的に親しまれている日用品や自然現象の中に、この世界が存在し



朝の静寂

野村 徹

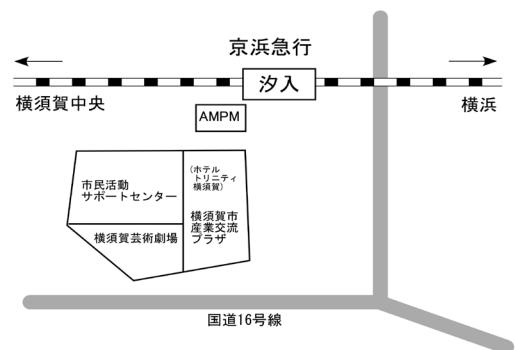
ています。特にお年寄りには、安らぎや癒しを感じて頂けると自負しています。

こうした方々に見て頂くにも、私一人では限界がありますので、私の指導している絵画教室の生徒さんに手伝ってもらっています。それは、毎年実施している作品展です。昨年12月に7回目を迎えました。一回の作品展に200～300人の皆さんをお迎えしております。お帰りの際に「大変くつろいだひと時を過ごさせて頂いて有り難う」の一言は、この上もない喜びを感じる瞬間です。

このような機会を重ねることで、今後とも、地域社会の輪の中に自分を置き、人生を有意義に過ごせればと希っています。



落穂会教室風景



事務局からのお知らせ!!

新入会員の紹介

- ◎ 金子武義・・・小集団活動リーダー養成（三浦市在住）
- ◎ 三原研治・・・電通 OB（横須賀市在住）

第5回定期総会

*総会／5月19日（月） 17:00～18:00 *場所／横須賀市産業交流プラザ

*懇親会／18:00～20:00

瓢箪から駒が出た！・・・

師走も押し迫ったある日、ホームページ部がYRPベンチャー棟のいつもの会議室で開かれた。目的は12月31日午後11時59分に更新するホームページ新春版原稿の最終確認であり、会議は順調に推移して一段落する。

「ねえ」それは突然始まった。あたかも地震が突発したかのように。

「ホームページもいいけど、会報誌の発行も面白そうじゃない？」「.....」「??」「?」「!」

一瞬の沈黙のあと一人が口を挟む。「それはいい！当会には新聞社系出版社で編集長を努めていたという個人会員もいるし、彼女なら引き受けてくれそうじゃない。」この一言がトリガとなって、会議はフリートーク風雑談会へと変身する。それは出席者誰しもの頭に、面倒くさそうな企画だけど長が決まったのなら気楽に付き合えそうだと、との思いが一瞬よぎったからではなかろうか。

「会員相互の情報交換が目的だろうけれど宣伝を兼ねて会員外にも広く配ろう」「会員企業や提携団体にも置いて自由に持ち帰ってもらおうスタイルはどうだろう？」「何部刷る？」「部数が多ければ広告費が貰えるかも」無責任な放言は留まることを知らない。

たまたま同席されていた古川理事長の「面白そうな企画なので是非実現したい。私の方から卯月さんに連絡を取ってみる。」の言葉をもってこの放言会議は終了する。

瓢箪ならぬ冗談から出た独楽が回り出したのである。

明けて2008年は1月8日。場所は京急線汐入駅前の横須賀市立市民活動サポートセンター。古川理事長、野村副理事長、卯月新任編集長の錚々たるメンバーにホームページ部会員が合流して、第1回会報誌発行準備委員会が開かれた。

最初に討議されたのは会報誌の位置づけであり、名前である。炬燵に入って蜜柑を摘みながらでも気楽に

読める小冊子を目指す意味で会の機関誌よりは広報誌という位置づけに、「産業クラスター研究会ニュース」という無難な名前よりもクラスターの語意を汲ん



だ「葡萄の囁き(ぶどうのささやき)」が題字として採用された。

その後準備委員会は、2月6日を皮切りに何回か開かれ、題字デザイン、紙面ページ数・レイアウト、記事内容の検討・収集等について活発な意見交換がなされてきた。その結果が本日皆様のお手元にお届けしたものです。

改めて会報誌創刊号発刊おめでとう！準備委員の皆様ご苦労さまでした。

❖ ささやき ❖

突然携帯で会報誌を出すことにしたから出て来いって言われてもねエ。あれよあれよと言う間に話が進んで、どうなることかと内心ビクビクものでした。集まって来た方々のエネルギーに圧倒されっぱなしで、楽しく戸惑いながら、夫々に遠慮しながら夫々に妥協なしで、でき上がったのがこの創刊号です。いかがですか？季刊の予定です。発行部数万部を目指して、これからどんどん進化していきます。よろしく。皆様のご投稿をお待ちしています。(卯)

発行：NPO法人 産業クラスター研究会／〒239-0847 横須賀市光が丘8-3 YRPベンチャー棟218号

Tel & Fax：046-847-6355

横浜事務所／〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80

神奈川中小企業センター712

Tel：045-633-6488／Fax：045-633-5183

東京事務所／〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-25-21

渋谷NTビル3階 (株)リズム内

発行人：古川弘康／編集人：卯月 文・赤羽孝之・大西洋治・大久保全勝・川島和男・木下 武・杉山徳義
野村 徹・堀家彰生